

奥能登公立 4 病院機能強化検討会・部門別分科会

(産科医療・小児医療) 議事録

令和 8 年 7 月 24 日 (金) 15:00～16:10 (於：穴水町役場 3 階大ホール)

1. 開 会

2. 石川県健康福祉部長あいさつ

【事務局 塗師健康福祉部長】

皆様こんにちは。石川県健康福祉部長の塗師と申します。本日は奥能登公立 4 病院機能強化検討会、産科医療・小児医療分科会にご出席いただきまして、ありがとうございます。オンラインで参加の皆様もありがとうございます。

また、日頃より本県の医療行政、様々な点で格別のご理解、ご協力を賜っているということにつきましても、この場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。いつもありがとうございます。

さて、奥能登における医療提供体制の確保につきましては、すでに決定をしております、新病院等の大きな方向性の実現に向け、諸課題につきましては、部門別分科会を開催し、検討・解決を図るということをしております。専門的な議論を進めておるところでございます。この産科医療、小児医療の分科会につきましては、先月 12 日の方に開催をさせていただき、産科、小児科の専門の先生、それから行政の関係者を踏まえて、主に分娩機能について、まず母子の安全・安心を第一に、どのような体制をとることができるのか、それぞれのお立場においてご意見をいただいたところでございます。

本日は、その分科会でいただきましたご意見をもとに、分科会としての意見のとりまとめ案をまとめさせていただきましたので、こちらについてご議論をいただきたいと思いますと考えております。

本日の分科会の結果につきましては、来月にも開催予定の知事と奥能登 4 市町の首長が出席をいたす予定の第 6 回検討会の方でまた報告をして、議論いただきたいと思いますと考えております。

皆様方におかれましては、またそれぞれの立場において、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議 題

○分科会とりまとめ案等について

(事務局から資料に基づいて説明)

【谷内江座長】

私の方から指名させていただく方々のご意見をお伺いしたいと思います。

まずは全体の視点から、金沢医科大学の中橋所長をお願いします。

【金沢医科大学能登北部地域医療研究所 中橋所長】

中橋でございます。

私は産科・小児科の専門外でございますので、あまり具体的な意見はここでは述べることはできないですが、地域医療にずっと関わってきた人間としては、日本全国で地域医療をうまくやれているところというのは、かなりしっかりとした、こういう住民参加のある地域でうまくいっていると見ております。

そういう意味では、今回は保健師さんであったり、実際の妊産婦の方々からの生の声もかなりこちらに上げていただいて、大変いいことだと思っております。

これから先、やはり新病院のことを考えていく上でも、理想を追い求めながら、理想に至らない部分を、どういう形で埋めていくかということも、1つの議論になったと思いますが、そういった中の要素の1つに、住民の参加という要素も加えて、議論していただければありがたいと考えております。私からは以上でございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

おっしゃるとおりだと思いますので、このアンケートは本当によかったと思います。これからもそういう形で進めていく必要があると私自身思いました。

それでは石川県立中央病院の岡田病院長をお願いします。

【石川県立中央病院 岡田病院長】

石川県立中央病院の岡田と申します。

今回、アンケート等の皆様が感じておられる不安、負担、不満ということに関しては、十分理解させていただいているところでございますが、総合母子医療センターの責務を負う当院といたしましては、責任者といたしましては、やはり何よりも安全な分娩というのは、私はとても大事にさせていただきたいです。

少しでもリスクを下げた分娩をしていただいて、安全、できるだけ安全にご出産の上、

ぜひとも能登で、安心して大きく大切に育てていただければというふうに思います。私からは以上でございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは、専門家の立場からご意見お伺いしていきたいと思います。まずは石川県立中央病院の佐々木先生お願いします。

【石川県立中央病院 佐々木総合母子医療センター長】

石川県立中央病院の佐々木でございます。

まず最初に、このとりまとめ案の中で、センター長として、お母さん・赤ちゃんについて触れていただいて本当にありがとうございます。

このとりまとめ案を拝見しまして、これでもう少ししましたら、奥能登のお産がもう少し安全になる、ということを報告できるのではないかと思います。

我々産科医が何をしているかということですが、小児科の先生方が子どもの声に一生懸命、全身全霊で耳を傾けられるのと一緒に、産科医は胎児の声を、声なき声を聞くということを生業にしております。

この点が、我々が安全を強調する理由でありまして、しかも正常分娩、事後的にしかわからないということも見込んでいただき、本当に言いたいことが全部盛り込まれていると思います。

それと、ただ我々が安全を強調すると、安全を利益として強調いたしますと、安心という点で不利益が生じる、アンバランスが生じるということは、富澤先生のアンケート調査でもよくわかりましたし、その不利益を埋めるための何か支援策というものを、どう充実させていくかということが求められているのを感じました。私からは以上でございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは金沢大学小児科の和田先生、ウェブ参加ですがお願いできますか。

【金沢大学小児科 和田教授】

金沢大学小児科の和田と申します。

本日は詳しくご説明いただきどうもありがとうございます。現状がよく理解できました。

現在、金沢大学小児科からは、輪島病院そして、珠洲市総合病院に小児科常勤医を派遣

させていただいています。

今後、新病院ができた後も、奥能登の小児医療を支えていきたいと思っております。

その上で、分娩につきましては、安心・安全が最も大切だと私も考えております。私達としましては、地元で安心して子育てができるように、病院や行政など関係部署と今後も協力していきたいと考えております。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは産婦人科の安彦先生お願いします。

【金沢大学産科婦人科 安彦教授】

ありがとうございます。

とりまとめの方、見せていただいて、本当にそのとおりだと考えました。

また、今回見せていただいた、妊産婦さんを対象にした調査と、それから保健師さんを通じてですが、地元の妊婦さんがどういうふうにいるかという、生の声が拾えたのは、非常にありがたいことだと思っております。

やはり、前回申しましたように、私どもとしては小児科の和田教授と同じように、分娩に関しては、どうしても安全ということは譲れないと考えておりますので、その点は変わらないですが、その上で、今、現に妊産婦さんが困っておられる点など、もう少しここがあればという点について、何とか対応できることがないかという方向にも議論が向くといいと思っております。ありがとうございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは、金沢医科大学産科婦人科の高倉先生お願いします。

【金沢医科大学産科婦人科 高倉教授】

ありがとうございます。とても我々の意見を汲んでいただいてありがとうございます。

やはり妊婦さんたちが距離と移動に関してとても負担、不安を抱いていらっしゃる、ということがよくわかりました。

我々、このあたりは行政の方をお願いすることになりますが、このあたりの負担を払拭するように、今の事前宿泊とか、公的な移動手段の提供といったことをさらに推し進めていただきたいと思っております。

我々としまして、今のところ、単年ではありますが、金沢医科大学の方から週に1回、公立穴水総合病院と珠洲市総合病院で妊婦健診ができる体制を提供しております。

それでもできるだけ中央の方と連絡をとり、安全を確保しながら、全体として能登の妊婦さんが安心できる体制を築いていただけたらと思っております。ありがとうございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それではウェブで参加されています、小児科の伊川先生お願いします。

【金沢医科大学小児科 伊川教授】

よろしくお願いします。金沢医大小児科の伊川です。

富澤先生の取ってくださったこのアンケート、大変ためになりました。ありがとうございます。

アンケートの内容で一番印象にありましたのが、やはり妊産婦さんがこの移動というものを、とても危惧されているということがよくわかりました。

やはり安全というものを保つためには、例えば金沢までの移動費であったり、そこでのホテルだったりなどを確保してあげることももちろん大切だと思いましたが、一方で、上の子が心配だ、などということで、かなり無理をされて地元にて、そこで事故的に生まれてしまって、不幸な転機をたどるということも絶対避けなければならないというふうにも印象として伺いましたので、何かセーフティーネットを、広く、2つ、3つと広いセーフティーネットの準備というものだけは、欠かせないのではないか、このワンホスピタル構想をやる上では欠かせないのではということとは1点思いました。

あともう1点としては、例えば制度を知らなかった、七尾で生まれて、それでお金が出るなどの制度を知らなかったという方が1人おられました、やはり丁寧な説明ということ、時間をかけて、住民にしていき、制度を知らなかったということも含めて、なぜ安全なのか、なぜ安心なのかということ、丁寧に説明して、皆さんが理解してくれる、100%理解してもらえようことを継続してやっていくことも大切だと思いました。以上です。

【谷内江座長】

先生ありがとうございました。

それでは能登総合病院産婦人科の富澤先生、よろしくお願いします。

【能登総合病院産婦人科 富澤部長】

能登総合病院産婦人科の富澤です。

今回、現在の周産期医療体制を利用されている妊産婦さんが、この制度をどのように受け止め、どのような不安や要望を抱えているのかを知るために、アンケート調査を実施しました。

調査の結果、先ほどのお話にもありましたように、分娩施設までの移動距離をはじめ、通院や出産に伴うさまざまな不安、負担、不満があることが分かりました。

こうした声を受け、今、私たちにできることは何かを考えながら、一つひとつ不安を取り除いていきたいと考えています。

アンケートでは、特に「分娩施設をどのように選べばよいのか分からなかった」というご意見が多く寄せられました。

そこで当院では、病院の特徴や診療体制、妊婦健診から分娩までの流れ、受けられる支援などを分かりやすくまとめ、ホームページでご覧いただけるようにしました。現在、すでに公開しており、今後、奥能登地域の4医療機関にも情報をお伝えし、妊婦さんへの説明に活用していただきたいと考えています。

今後は、通院や妊婦健診に伴う負担についても検討を重ね、妊産婦さんが少しでも安心して妊娠・出産に臨めるよう、支援体制をさらに充実させていきたいと思ひます。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは小児科の池野先生お願いします。

【能登総合病院小児科 池野部長】

当院の小児科の立場としましては、北部からお越しいただく妊婦さんたち、また生まれてくるであろう赤ちゃんたちに全身全霊をもって、最善を尽くす、最善の医療をお届けするというに引き続き従事していこう、ということに尽きると考えております。

また小児科の立場としましては、生まれてくる赤ちゃんたち、分娩そのもの、今は分娩がお題になっておりますが、生まれることがゴールではなく、生まれることがスタートでもありますので、お母様方、今後、安心して育児に繋げることができるよう、北部の小児科の先生たちと連携をしっかりととりながら、北部のお住まいのところにお返しできたらと思っております。以上でございます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは恵寿総合病院の鎌田病院長お願いできますか。

【恵寿総合病院 鎌田病院長】

鎌田です。

私達は昨年度、奥能登の妊婦さん 40 人の出産を行いました。そのうち 15 人が、県の制度の宿泊制度を利用していました。

そういう経験からも、今、県が提示しているセミオープンを利用した、このワンホスピタル体制というのが一番安心だろうというふうに実感しております。

そういう意味で、先ほども住民参加のこれから啓発ということがありましたが、住民参加していただきながら、行政もみんなで安心だということを啓発していく必要があると思います。

ただ一方で、いろんな不満、不安、負担などいろいろ挙がっていますので、今も県もいろいろと制度を行っていますが、これらを周知したり、もっと何かないか、これを探っていくべきだろうと思います。

一方でまた、新病院ができたときに、いや本当に永久的にこの分娩ができないのか。ある程度の希望を持っていただくという意味でも、多目的な箱物があって、もし分娩体制ができたらしめすという、少し希望といいますか、そういうことも持ってもらってもいいのかと思います。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは公立 4 病院の病院長の先生方にお聞きします。まずは市立輪島病院の田中先生お願いします。

【市立輪島病院 田中病院長】

輪島病院の田中です。

大学病院を始めとして、各病院の方々には本当に日頃から能登の医療提供体制にご協力いただき本当にありがとうございます。

今いろいろな話をお聞きしましたが、1 つはやはりこのアンケートからもわかっている、出た答えですが、妊娠期間中、不安、負担、不満、非常に大きいのはよくわかりました。

その不安、不満を少しでも解消する上では、私としては、分娩そのものは確かに安心・安全な七尾、金沢の病院で、分娩するのは大事なことかと思いますが、日頃の妊娠期間中の妊婦さんの不安を解消する上では、できれば 1 人でよろしいのですが、常勤の医師が新

病院にいただけで、妊婦さんの不安はかなり解消すると思いますし、本当に困ったときの対応、切迫流産、早産等にも対応いただけると思うので、そういう人を1人、ローテーションでも構いませんので、常勤の医師を派遣していただけたら助かるという思いがありますし、先ほど鎌田先生のお話にも出てきましたが、初めから分娩を諦めるのではなくて、新しい病院の中に、外来はもちろん、産婦人科の外来はもちろん作るのですが、分娩可能な設備、部屋等々を設けていただけたら助かるという思いがあります。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは珠洲市総合病院の浜田病院長お願いします。

【珠洲市総合病院 浜田病院長】

ありがとうございます。

今のアンケートを見まして、やはり安心・安全を確保するという事は簡単なことではないと思いました。安心・安全を何とか確保できれば、やはり地元でお産ができるのは、本当は理想だと思っています。

それを、安心・安全を確保するための議論を、これからまた話し合っ、需要を測りながらしていきたいとは思いますが、ここで安心・安全が十分確保できないからという現状で、そういう結論で、奥能登の中から分娩機能をこの段階で消してしまうということはないでいただければと思います。

7、8年先に新病院が動き出したときに、その可能性を、やはりそこでお産ができる可能性だけでも、残していただけたらと思いますので、例えば、箱物の設計段階の中で、恵寿の鎌田院長も言われましたが、箱物の中で、分娩機能を持たせられるスペースをそこで確保しておくだけでもできないでしょうか。ということを皆さんにお願いしたいと思っています。

そのスペースというのはもちろん、結局のところ、ドクター、助産師を始めとして、それだけのスタッフが揃わなければ、いくらスペースがあってもできないわけですが、もしかしたらいろんな対策をすることによって、できるかもしれない。そういうことができるかもしれない。そのときに今度はスペースがなかったらどうにもならないわけですので、スタートの段階では、設計段階では、スペースを確保することは、お認めいただきたいと思っています。

もちろん、スタートの段階からでも他の目的に転用できるということを考えつつ、そのスペースを確保しておく。そして、新病院ができたときにそれだけの人員、スタッフを確保できるかどうかというのは非常に難しいということは、わかっているつもりですが、可

能性だけはそこまで残して、今の段階で完全に消してしまうことはないようお願いしたいと思っています。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは穴水総合病院の島中院長お願いします。

【公立穴水総合病院 島中院院長】

ほとんど意見が出ていると思っております、一般的なことは話せますが、年間 100 例で高度な技術を持つ産科の先生が来るのだろうか。

つまり、生きがいをもってやって来ていただくためには、分娩数を増やすような、住民や市町の努力がある程度必要ではないですか。

100 人で 3 日に 1 回しかなく、あとは何をしたいかわからないような状況で、そういう優秀な先生を、呼び込めるのかという、不安というか、危惧しています。

あとはこの奥能登にどれだけ住民を増やすというか、減らないようにするかは市町がよく考えて頑張っていたきたいと願っております。以上です

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは宇出津総合病院の野島院長お願いします。

【公立宇出津総合病院 野島病院長】

分娩の怖さというのは、最近、身内でもありましたので、本当につらいものだと思いますので、後悔のない分娩をしていただきたいと思う次第です。

ですから、新しい病院で初めに開けないというのは仕方ないのではないかと考えています。

ただ、鎌田先生が、今、先に言われましたが、箱物だけは準備できる場所を確保していただくということは、医療というのは本当に僕らの想像を越して進歩しているものですので、そういう安全性といったところ、あと人員の方が、整理できたらできる体制というのをやはり確保していただきたいというのは切に希望します。よろしくお願いします。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

そして行政の立場から各市町の方々の意見をお聞きしたいと思います。まずは輪島市の中前副市長お願いします。

【輪島市 中前副市長】

大学病院、医療関係者の方、石川県の皆様につきましては、医療制度の体制維持に対しまして、ご協力いただきありがとうございます。

また、本日とりまとめ案を作成していただいたことに対しまして、改めて感謝申し上げます。

行政の立場からということで、これまでも発言させていただいておりますが、地元で産みたいという声は切実な願いということで、多数の方、そういうご意見をいただいております。

この医療体制の充実ということは、地域社会にとっては不可欠なインフラということで、このインフラがないことには、逆に分娩ができないから、若い人たちは住まないでいいのではないかという声があるのも確かであります。ただ、専門家の皆様が言われたように、リスクゼロの追求や、安心・安全を見越しますと、現在の状況では非常に困難であるという現実は重く受け止めなければいけないと思っております。

ただ今回のアンケート結果にもありましたように、移動時間の長さとか、緊急時に間に合うのか、その移動のプロセスに対しての安心・安全というものがどう考えられているのかというところは、今後、しっかりと考えていくことが必要ではないかと思っております。

現在の厳しい状況は理解しておりますが、できるものは早急にやっていただければいいのですが、分娩はもうできないというふうに結論づけるのではなく、このとりまとめ案にもありますが、県では、産科医を始めとする医療従事者の確保、今、国に要望している最中と伺っております。こういった対応策を引き続きやっていただくということであれば、「分娩実施の環境整備に向けて、様々な可能性を探り続けていってはどうか」ではなく、「探り続けていく」というような形で対応していただけたらと思っております。以上です。

【谷内江座長】

はい、ありがとうございました。

珠洲市の金田副市長お願いいたします。

【珠洲市 金田副市長】

珠洲市です。

まずは今回のアンケート結果、我々行政にもこういった妊産婦さんの意識が把握できたというのはすごく有意義だと思いました。

ある意味想像どおりの部分もありましたし、そういう意識をお持ちなのかというのが明確に出たと感じました。

できればこういう調査、なかなか医療機関でこれ続けるのは本当に難しいとは思いますが、こういった調査を常に把握しておくことが、日々変わっていく地域の状況や、医療環境の変化にも、今後どう対応するかというベースになると思いますので、ぜひこういったところは、場合によっては行政も協力すべきだと思いますが、まずは妊産婦さんの意識調査は継続すべきと感じました。

もう1点は、何度も出てくる不安、負担、不満のところ です。

行政としてもこの負担に関しては、様々な取り組みが可能性としてはあるとも感じました。

一方で不安のところは、最終的には距離の問題、特に珠洲は一番距離のハンデを背負っている地域ですが、これはどこまでいっても一番近いところにあるのが理想というのは誰しもが思うところです。

一方で、こういったところを、出産の前、出産してから以降、お1人目を抱えている家庭、妊産婦さん、様々な条件がある中で、この不安とか不満とか負担を含めて、いかにその思いを減らしていけるかが、最終的には奥能登を諦めないという気持ちをどう持ってもらえるか。もう奥能登に住むことを諦めるということにならないように、いかにこの3つの不安要素、負担、不満のところをどう減らすか。これは引き続き、病院ができてゴールではないので、その後も地域は続くわけですから、先ほど申しましたとおり、意識調査を継続しながら、あらゆる可能性をこれからも引き続き追求していきたいと、行政としても検討していきたいと感じました。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

穴水町の宮崎副町長お願いします。

【穴水町 宮崎副町長】

いつも穴水町の病院の経営に関しまして、本当にご協力いただきまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

今、調査にもありましたとおり、やはり負担というところは経済的負担であれば、私もいろいろ支援などさせていただいており、できるのかと思いますが、やはり不安をお持ちの方に「心配するな」、と言うのはなかなか正直難しいのではないかと思います。そ

の不安を取り除くためには、やはり距離的な不安をしっかりと取り除くためには、やはり地元で分娩ができるという体制が必要なのではないかと感じております。

今の段階で、分娩を諦めてしまうというようなことがないように、この間も知事会等で知事が産科医確保の問題をご発言されて、賛同をされている知事もおいでたと報道等で承知しております。日本全体でこういう課題等々、分娩に関する課題があるエリアがたくさんあると思います。ぜひ県の方で主導的に国の方に働きかけていただいて、ぜひこの奥能登がモデルとして、分娩に対して全国に誇れるようなことになるように、引き続き、私も基礎自治体としても頑張っていきたいと思いますが、ぜひ県の方でも、いろいろなところに働きかけていただいて、お願いしたいと思っております。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは、能登町の野口副町長をお願いします。

【能登町 野口副町長】

能登町でございます。

大学病院をはじめ、各医療機関の皆様方、大変日頃よりお世話になっております。そして県にもいろいろお世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。

いくつか既にご発言もございましたが、今般、妊婦さんのアンケートをとりまとめいただいて、どちらかというとな概ね皆さん、現状に対して理解されているのではないかと、あるいは、いやそうではないのではないかと、というような二者択一的なお話のところがある程度、頭の整理が付きやすい形になり、大変有難く感じております。

概ね先ほどもご発言ございましたが、私もイメージした結果、あるいはそういうのもございましたが、大体、私もとしては概ねイメージしたものに近い結果だったというふうに受け止めております。

今回、分科会のとりまとめ案ということで、おまとめいただいたわけですが、先ほど、新病院において、分娩の機能を確保する箱物といいますか、スペースといいますか、そういうものを整備してはという話もございましたが、それも含めて、今とりまとめ案のところでは、先ほども産科医を始めとする医療従事者の確保策、国に要望しているところで、簡単に解決する話ではございません。そして、時間もかかると思います。そのような意味で、ここでは、「様々な可能性を探り続けていってはどうか」というところですが、ここを、「様々な可能性を引き続き検討する」ということで、ここにとりまとめていただく、記載いただくとともに、それを文言で終わらない形でぜひとも何とかお願いできればという思いでございます。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。事務局から資料の説明を受けまして、それぞれのお立場から、大変貴重な意見をいただいたと思います。特に今回の議論の中で、能登総合病院から提供いただきましたアンケートの結果は、非常に重要な意味を持っていますし、大変貴重な資料になったと思います。

私の方から発言するのはあまりよくないのですが、実はこのアンケートの結果を見まして、それから皆さんのご意見をお聞きして、小児科医の立場も含めて、少しだけお話をさせていただきます。

まずは、このとりまとめ案にありますように、当事者であります生まれてくる、まだ声のない赤ちゃん、それから赤ちゃんを産むお母さんの安全を第一にしたいというのは非常に重要な事項で、これは医療関係の方が、専門家の方が皆さんが一致して、お話ししているとおりであります。その上で、アンケートの結果は非常に重要な意味を持っていますし、半ば予想したとおりでございますが、この2年半、私自身、地震発災以降、何度も何度も珠洲の先端から、それから能登半島の西海岸、七浦、大沢、上大沢、あるいは富来と色々な季節に巡って走ってきましたし、先週も大谷の方まで行っていて、いかにも遠いという距離感は実感しております。

特に冬や天候の悪いときは大変な思いをして車を走らせないといけないということもありますし、今はかなり道路が良くなりましたけども、アップダウンがひどかった時は、妊産婦さんが運転して、七尾や金沢に行くのは大変だったと思います。

そのことをよく理解した上で、分娩の安全さというのは、それを捨てることはあってはならないというのが、私達医療者の立場の考えになるかと思います。その上で、その安心の部分、あるいはご負担の部分をどうするかという工夫を、この石川県のモデルとしてどういうふうにしていくかというのは、かなりの力、エフォートがいることではあります、やる必要があります。

これは実際に後でお話いただいてもいいのですが、全国の各地で同じような地域が、自治体があります。石川県と同じような課題、もっと大変な課題を抱えているところで、いろいろな工夫がされているわけですが、その中で様々な選択肢を選ばないといけない中で、捨てるはいけないのはやはり当事者の安全ということかと思います。どのような工夫が可能か、しないといけないのかは、石川県の場合は、本当に奥能登は広いですし、とりわけ大変な工夫が必要ですが、そういう工夫を重ねながら、私達が知恵を出し合いながら協力して、また先ほど言われましたように、アンケートも継続的に繰り返しやりながら、幸い新病院ができるまでまだ数年ありますので、その中で、いろいろな準備段階での工夫、あるいは連携もできます。そんな中で、いろいろな知恵を重ねていけたらいいと私自

身も感じました。今日の皆さんのお話をお聞きして、またその思いを強くしています。

ここまでは予定した方々からのお話を聞きましたが、お互いでもいいですし、ご発言いただいてない方からのご発言を受けてみたいと思いますが、いかがでしょうか。何かご発言ありますでしょうか。追加の発言が何かありましたら。

安彦先生、いきなり振ってもよろしいでしょうか。現状を踏まえて、少しご説明いただいてもよろしいでしょうか。

【金沢大学産科婦人科 安彦教授】

ありがとうございます。金沢大学の産婦人科の安彦です。

現状ということで、産婦人科学会の方でも、全国都道府県のこういう分娩提供体制の調査はしております、例えば高知県の、四国4県は全部そうなのですが、東北など、石川県同様、もしくはそれより厳しい状況にある都道府県もあり、全体的にはやはり集約化の流れになっておまして、学会、産婦人科医の集団としてはやはり、絶対に危ないことはあってはならないということで、分娩の安全、特に命の安全を第一に考えております。そういった状況から考えますと、やはり分娩場所に関しては譲れないところはあると思います。

一方で、産んだ後に、お子さんが例えば、産後に保健師さん、助産師さんに相談できる、それから短期入院の産後ケアができる、そしてお子さんが急に熱が出た、何か心配な症状があったときに小児科に行ける。このように人生で一番危ない点である分娩の瞬間ではなく、その後ずっと生活とともにお子さんを産み育てていく。家族とお子さんの成長ということをやはり、しっかり示していく必要があるのではないかと、私自身は思っております。

先ほど、穴水総合病院の病院長の先生がおっしゃったように、やはり100分娩で複数医師を派遣するというのは、やはりどう考えても、現状、例えば国にお願いしても、おそらくそこに手を挙げてくれる産婦人科医は難しいのではないかというふうに思いますし、他にたくさんの妊婦さんに医療の配分ということを考えますと、難しいというふうに思います。

またハード面で、分娩できる病院というか、可能性を残すということでいいますと、そんなにものすごく難しいハードが必要なわけではなくて、集中治療と同じように、酸素など、手術室と同じようにガスがちゃんと通っているところであれば、最近ではLDRなども別途分娩台に変えたりするものを後から入れるだけでできます。一番問題なのは「人」であり、おそらく箱ということでは新病院、特にとても難しいことをしなくても、分娩が必要であれば、することはできると思うのですが、一番難しい「人」というところが、少し難しいのではないかと思います。以上です。

【谷内江座長】

ありがとうございました。全国の現状というのを含めてお話いただきました。何かができないというよりは、どういうふうにしていけばいいかということ、前向きに考えるのが一番大事かと思ひますし、ワンホスピタル構想というものを、奥能登で分娩施設がないというふうに捉える捉え方があるかもしれないですが、そうではなく、ワンホスピタルとして中能登の病院や金沢の病院と連携しながら、あるいは助産師さんやオンライン診療を上手に工夫しながら、そして行政の支援を受けながら、全体としてどういう仕組みが可能かということ、まだまだ工夫の余地があると思ひますし、それを目指していくのが、今回のとりまとめ案ではないかと思ひます。

他に何かご意見ありますでしょうか。

【石川県立中央病院 佐々木総合母子医療センター長】

石川県立中央病院の佐々木でございます。大変細かいことで申し訳ございませんが、とりまとめ案の中の文言につきまして、「記」のところで「医療リスクゼロ」という言葉がございます。これはもちろんスローガンのなお話でいいのかとは思ひますが、多くの方の目に留まる可能性もございますし、常にリスクは内在している、本来ゼロにはならないものなので、いろいろ誤解を生む可能性もございますし、「医療リスクの最小化」のような言葉にさせていただけると良いかと考えております。

【谷内江座長】

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思ひます。これは言葉の理解という意味でも、「ゼロ」はあり得ないので、「最小化」というのが一番いい言葉だと私も思ひます。これはぜひ修正して下さい。

その他に、とりまとめ案の確認の作業に入りたいと思ひます。具体的にこのとりまとめ案について、ご意見、先ほど最後の方の文言について、行政の視点からいくつかご指摘があったと思ひます。その他にいかがでしょうか。何でもご自由に。

今、専門家の方々、行政の方々、病院長の方々に意見を伺いましたが、事務局の方で少しコメントはありますか。木村さんどうですか、特にありませんか。

いかがでしょうか、皆さんご意見。

箱物についての記載を入れるかどうかですとか、それから最後の表現の問題など、それから今、佐々木先生からご指摘いただいたリスクの表現については、修正をさせていただくことになると思ひますが、その他にご指摘、ご意見はないでしょうか。

少し時間を置いて、見ていただき、気が付いたことをご発言いただければよろしいかと

思います。

このとりまとめ案については、只今いただいた意見を踏まえて、少し小さな修正を加えて、最終的には8月に検討会の本会議を開催しますが、そこに報告することになるかと思っています。それを踏まえた修正について、他になれば、先ほどまでのことについて私の方にご一任いただき、最終案を作りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

4. 閉 会